

舞老連だより

第33号

第33号

令和7年11月28日(金)

舞老連事務局発行



舞老連創立60周年記念!!

舞バック交流大会で会員の交流を深める!!
＝舞鶴発祥のニュースポーツ・舞バック＝

毎年恒例の「舞バック交流大会」を舞老連創立60周年記念事業の一環で、11月13日(木)東体育館で開催しました。総勢27名の参加で、高齢者支援課からも2名の職員さんが参加されました。

「舞バック」とは、舞鶴発祥のスポーツで、子供から高齢者まで気軽にできる、カーリングに似たニュースポーツです。



スティックを横にして、木製のバックを押し出して目標のエリアに入れて点数を争うゲームで、3人一組のチームで交互に1チーム6個のバックを打ち合います。簡単そうですが、なかなか目標エリアに入りません。



力の入れ具合や床の滑り具合などなかなか難しく、目標エリアに入っても相手チームに自分のチームのバックがあてられエリアからはじく飛ばされるなど、天国から地獄です。

参加は11クラブと高齢者支援課の皆さんの参加で、9チームの対戦になりました。参加者が例年より少なかったこともあり、2チームづつの対戦になり、第2ゲームは上位から順に対戦しました。



結果は小差で大接戦となり、各コートで大きな歓声が上がっていました。

＝大会結果は大接戦でした!＝

優勝 高齢者支援課

チーム 27点

川森未喜・新谷一

幸・壺内邦夫



準優勝 舞鶴よつ葉クラブチーム 19点

嵯山藤江・井原美津子・岡安昇

第3位 引士福寿会チーム 18点

小谷要一・臼井知史・臼井ちどり

第4位 溝尻町親和会チーム 18点

児玉つぎ枝・森下静枝・関本寿一

第5位 寿町長寿会Bチーム 17点

柴山要・隅美雪・佐野麗子

第6位 城屋そよご会チーム 14点

坪内勝政・坪内久恵・政木貴美枝

第7位 福来団地シニアクラブチーム 13点

小和田宏子・小和田清二

第8位 たぬきさんチーム 12点

京谷知子・金森典子

第9位 野村寺年輪会チーム 11点

亀井勉・尾崎辰市・亀井弘邦

第10位 寿町長寿会Aチーム 8点

井上一男・村尾昌治・村尾とみ江

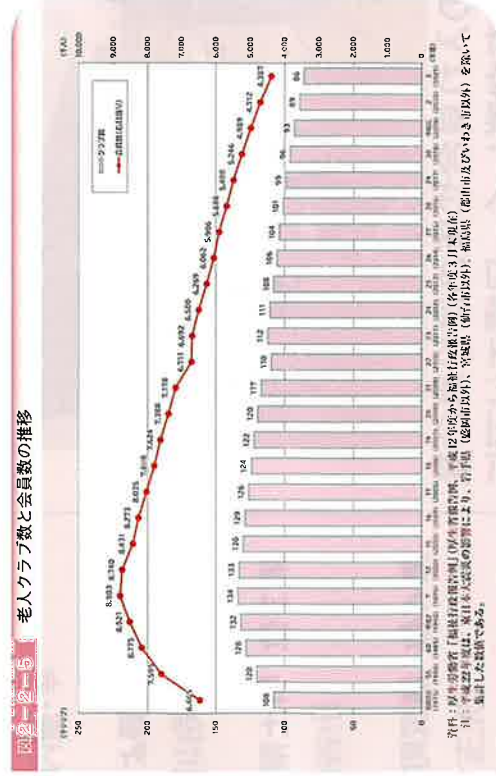
※第6位の城屋そよご会チームには、舞老連創立60周年にちなんで「舞老連創立60周年記念賞」が贈呈されました。



老人クラブと地方自治体の協働を強めよう!! ＝老人クラブの活動意欲を高め協働の推進を！＝

令和6年度に厚生労働省の補助事業として、地方自治体と老人クラブが連携することで地域福祉の推進に向けた調査の結果がまとめられました。（横浜銀総合研究所作成）老人クラブの活動は会員の生きがい、健康づくりだけでなく高齢者の居場所づくり・孤立防止や環境美化や防犯・防災、まちづくりなど多様な分野にも貢献しています。地方自治体の位置づけとしては、老人クラブはこうした多様な活動を行う互助組織であり、地域の高齢者の生活を支える重要な資源と考えられています。しかし、老人クラブにも多くの課題があり、地方自治体と老人クラブがその課題への対応を進めることが重要です。

老人クラブは高齢者の生活基盤を支える重要な資源ですが、大きな課題が会員数の減少・高齢化です。若い世代の入会者が減少しており、会員の高齢化で運営を担う人材の後継者不足、活動への参加者不足などの問題が生じています。



そのために老人クラブ活動の「見える化」が必要であり、そのことにより老人クラブの取り組みの意義を老人クラブのみならず、地方自治体においても認識することが大変重要です。今回、地方自治体が老人クラブの実態を把握していないとして、「活動振り返しシート」が作成されました。詳細は省きますが、このシートを活用して老人クラブでは会員同士が議論するきっかけになることが期待されます。同時に、地方自治体もこのシートを活用し、老人クラブ活動を地域福祉施策に役立て協働作業につなげることになると提起されています。地方自治体が老人クラブの地域社会への貢献に感謝し、その結果を地域に発信し、地域の様々な団体と「一緒に取り組む」という考えを普及・浸透が必要であると結論付けています。

老人クラブとしては、「自分たちが楽しみながら結果的に社会のためになることをやろう」という姿勢で前向きな発展につなげたいと思います。（令和7年3月厚労省老人保健健康推進等事業成果物・手引き参照）

【編集後記】 今回は、「舞バック」大会の報告を掲載しました。「舞バック」って何？という方がおられましたので、この機会に覚えて下さい。そして、何より参加していただくとその面白さが分かります。▼裏面には厚労省が地域福祉の推進についての調査事業報告書の内容を少し紹介しました。厚労省が地方自治体向けに老人クラブが地域の福祉にとっていかに重要な位置を占めているか、自治体にとっても老人クラブとともに地域福祉の向上に向けて取り組む姿勢が強調されています。▼第1回目の「俳句教室」で俳句の作り方を森松男さん（会員）に教えていただき、毎月句会を開催しています。最初は戸惑いながらもでしたが、句作りが楽しくなってきました。会員の皆さんもぜひ参加してみして下さい。初心者ばかりでスタートしていますので、気楽に参加して下さい。お待ちしております。（事務局・岡安）

「舞老連俳句教室」報告

皆で俳句作りを楽しんでいます!!

今まで3回の俳句教室を行いました。が、なかなか優秀な句が披露されていきます。選者役の森先生もこれからのようになるか楽しみですと言われています。

2回目の句会で29句、3回目には26句が発表されました。2回の句会で選ばれた優秀句を紹介します。

1回目 お題「月」

蝶々を待ち焦がれたる藤袴 ふじばこま

名月や木々の間をかくれんば

大山崎天下分け目の秋の旅

青空に天つく式概赤オクラ

夜長にてネイル楽しむおいた手に

情熱のタンゴ踊るか彼岸花

2回目 お題「紅葉」



散る紅葉 古偲ぶ意縁塔 いにしへのぶ

美濃柿を寝たきり母のすすり口

いつの間の旅立つ友や秋の暮

張りついて生きる他なし とほり 紅葉

座してみる紅葉の帳三千院

さんもくせいど 金木犀何処から香る我が家まで

お題と違う句もありますが、皆さんその情景が浮かぶような俳句を詠まれています。メンバーは日々熱心に俳句を詠まられ、「舞老連俳句会」のライン上でも多くの句を発表され、森先生の添削を受け、ますます上達されています。今後が楽しみです。（次回は、「暮・新年」をお題に 1月16日10時から開催します。）